

平成28年度第1回仙台市地域保健・保健所運営協議会 議事録

開催日時	平成28年5月25日（水）午後15時00分～17時00分
開催場所	仙台市役所本庁舎2階 第1委員会室
出席者	
委員 (順不同・敬称略)	寶澤篤（委員長） 赤坂和昭 安齋由貴子 及川敦子 片倉成子 駒形守俊 佐藤幸子 嶋中貴志 菅原武 高橋由美子 橋本実 花井稔（代理で庄司庶務課長） (欠席委員＝青沼清一 猪股佳子 岩沼徳衛 門脇俊弥 北村哲治 志村祐子)
事務局	健康福祉局 局長 保険高齢部長 保健衛生部長 保健所長 衛生研究所長 総務課長 障害者支援課長 高齢企画課長 介護予防推進室長 介護保険課長 保健管理課長 健康政策課長 医療政策担当課長 生活衛生課長 健康安全課感染症対策係長 子供未来局 局長 総務課長 子育て支援課地域支援係長 青葉区保健福祉センター所長 宮城野区保健福祉センター所長 若林区保健福祉センター所長 太白区保健福祉センター所長 泉区保健福祉センター所長 教育局 健康教育課主幹 同保健体育係長
次第	1. 開会 2. あいさつ 3. 新任委員紹介 4. 職員紹介 5. 議題 (1) 平成28年度 健康福祉局・子供未来局の主要事業等について (2) 「第2期 いきいき市民健康プラン」に基づく事業について (3) 平成28年度 食品の安全性確保対策について (4) 「第2期 いきいき市民健康プラン」中間評価関連調査について (5) その他

6. 閉会

<p>発言者等</p>	
<p><開会> 進行</p>	<p>それでは定刻になりましたので、ただいまから平成28年度第1回仙台市地域保健・保健所運営協議会を開催いたします。はじめに本協議会の開催にあたりまして、健康福祉局長の佐々木と子供未来局長の福田よりごあいさつ申し上げます。ではお願いいたします。</p>
<p><挨拶> 健康福祉局長</p>	<p>仙台市健康福祉局長の佐々木と申します。委員の皆様におかれましては大変お忙しい中、本協議会にお運びいただきまして、誠にありがとうございます。また日ごろより本市の保健福祉行政はもとより、市政各般にわたりまして、格段のご協力、ご理解をいただいておりますことに、この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。</p> <p>さて仙台市におきましては、震災から5年が経過し、震災復興計画の期間が終了いたしました。引き続き被災者の皆様には健康支援をはじめとした個別の支援対応、それから地域を挙げてのさまざまな取り組みを引き続き進めていく考えでございます。</p> <p>またこのたびの熊本地震におきましては、被災地の熊本市からの要請に基づきまして、保健師を先月下旬から継続して今月いっぱい派遣するというので、保健師の数としましては15名ほど派遣してございます。今後も被災地熊本県熊本市の状況に応じまして、私どもできる限りの支援を継続してまいりたいと考えてございます。</p> <p>本市の保健関係のお話を若干申し上げますと、この5月から昨年に引き続きまして、蚊の生息状況調査というものを行ってございます。昨年は国の通知等もございまして6月から始めた調査でございます。市内、比較的規模の大きな公園でヒトスジシマカ、昨年はデング熱中心にヒトスジシマカの生息状況調査を行いまして、市内にもその蚊の生息状況が確認されております。</p> <p>かつては西日本中心だったこのヒトスジシマカでございますが、1960年70年ころから段々北上いたしまして、いろいろ仙台でもいると言われておりましたが、きちんと行政として把握できたのは昨年からでございます。今年につきましては、この5月の連休明けから生息状況調査を2週間に一度の頻度でスタートしておりまして、実は1回目はゼロだったんですが、今週はじめて調査したところ、やはり発見されました。今後、市民、それから私ども行政の中でもそうですけども、蚊の駆除ということ、あるいはデング熱ですとか、今年はブラジルでのオリンピックもございまして、そういった輸入感染症対策、こういったところにも</p>

	<p>力を注いでいかなければならないというふうに考えてございます。</p> <p>また、市民の健康プランでございます「いきいき市民健康プラン」は10年単位で国に合わせて計画してございますが、中間年の見直しという作業に取りかかる時期に差しかかってございます。後ほどご説明いたしますが、いろんな指標を取って、国の政策、あるいは他の政令指定都市との比較など進めてまいりたいと思います。市民意識調査なども行いながら、市民の健康づくり、健康支援に取り組みを進めてまいりたいと思っております。</p> <p>委員の皆様方にはさまざまな専門的見地から本市のプラン、あるいは施策につきまして、ご忌たないご意見をちょうだいしたいと思います。本日はよろしく願いいたします。</p>
<p><挨拶> 子供未来局長</p>	<p>仙台市子供未来局長の福田でございます。4月の異動で、4月より子供未来局長を拝命いたしました。どうぞよろしく願いいたします。委員の皆様におかれましては、本市の児童福祉、それから母子保健の関係に対しまして、日ごろよりご指導ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。先ほど健康福祉局長からも熊本地震のお話がありましたけれども、子供未来局といたしましても、一日も早い復興に向けて、いろいろと支援をしてまいりたいと考えております。</p> <p>東日本大震災を機に、本市で開始した取り組みといたしまして、子どもたちの心のケア事業というのがあります。震災から6年目になりまして、徐々に震災の影響が薄れてきたところではあったのですが、今回熊本の地震を受けて、これをきっかけにして、不安定になるお子さんが出てくることも考えられますし、母親の育児不安に対するケアといったような観点からも、引き続き、各区役所での心の相談室などを通じた支援に力を入れていきたいと考えております。</p> <p>また児童虐待の問題も大きな問題となっております。児童虐待に関しましては、本市も含め、各自治体でさまざまな取り組みがなされているところではございますが、全国的にも本市においても、児童相談所の相談件数というのは増加傾向にございます。このような親子にまつわるさまざまな課題に対応していくためには、医療・福祉・教育など子どもに関わるさまざまな分野の方々との連携を、これまで以上に強めていかなければならないと考えております。</p> <p>そのためにも本日はそれぞれのお立場から忌たんのないご意見をちょうだいできればと思っておりますので、本日はどうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>進行</p>	<p>それでは次に本協議会を代表いたしまして、寶澤委員長よりごあいさ</p>

	つをいただきたいと存じます。寶澤委員長、よろしく願いいたします。
＜挨拶＞ 寶澤委員長	<p>寶澤でございます。本日はどうもありがとうございます。まず最初に仙台市の健康福祉局、子供未来局、そして各センターの所長の先生方、また教育局の方々、本当に仙台市の市民の健康のために力を尽くしてくださってありがとうございます。</p> <p>恐らく本日、主要事業等、どういうことを計画されているか、説明していただくことになると思いますが、委員の先生方からどれだけ有意義なコメントを引き出せるかが私の仕事になると思っております。</p> <p>多少、耳に痛い話でも結構ですので、委員の先生方は今年の事業などにつきまして、ぜひ忌たんのない意見を出していただいて、それを市の方々にもうまく活用していただくことで、さらに市民の健康を守るというところにつなげていければと思っております。本日はよろしく願いいたします。限られた時間ではありますが、活発なご議論をさせていただければと思っております。よろしく願いいたします。</p>
進行	ありがとうございました。ここで人事異動に伴いまして、新たに委員にご就任いただきました方をご紹介します。仙台労働基準監督署副所長の菅原武様でございます。
菅原委員	菅原です。よろしく願いします。
進行	どうぞよろしく願いいたします。それでは続きまして本日出席しております仙台市の職員を紹介させていただきます。ではまずごあいさつ申し上げました健康福祉局長の佐々木でございます。
健康福祉局長	はい、よろしく願いいたします。
進行	同じくごあいさつ申し上げました子供未来局長の福田でございます。
子供未来局長	どうぞよろしく願いいたします。
進行	保険高齢部長の會田でございます。
保険高齢部長	どうぞよろしく願いします。
進行	保健衛生部長の石澤でございます。
保健衛生部長	よろしく願いいたします。
進行	保健所長の下川でございます。
保健所長	よろしく願いいたします。
進行	衛生研究所長の大金でございます。
衛生研究所長	よろしく願いいたします。
進行	青葉区保健福祉センター所長の工藤でございます。
青葉区保健福祉センター所長	よろしく願いいたします。

進行	宮城野区保健福祉センター所長の佐久間でございます。
宮城野区保健福祉センター所長	よろしくお願ひいたします。
進行	若林区保健福祉センター所長の赤井でございます。
若林区保健福祉センター所長	よろしくお願ひいたします。
進行	太白区保健福祉センター所長の栗城でございます。
太白区保健福祉センター所長	よろしくお願ひいたします。
進行	最後に泉区保健福祉センター所長の加藤でございます。
泉区保健福祉センター所長	よろしくお願ひいたします。
進行	<p>また関係課長が出席しております。お手元の市職員出席者名簿をご覧ください。どうぞよろしくお願ひいたします。それではここで本日の協議会の成立についてお知らせいたします。現在、半数以上の委員の方に出席いただいておりますので、仙台市地域保健・保健所運営協議会条例第5条の規定により、本協議会は成立しております。</p> <p>では議事に入る前に資料のご確認をお願ひいたします。お手元の会議資料一覧をご覧ください。今回の資料は資料1から資料4、あとは参考資料1と参考資料2、ここまではいずれも事前に委員の皆様にお送りしているものでございますが、もう1つ本日追加で、全国健康保険協会宮城支部様の団体の取り組みを机上に配布しております。</p> <p>それではこれからの議事進行につきましては、委員長をお願いしたいと思います。實澤委員長、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
實澤委員長	<p>それでは委員の皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。議題に入ります前に、まず議事録署名人につきまして、私から指名させていただきます。よろしいでしょうか。それでは今回、議事録署名につきましては、橋本委員をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>はい、それでは早速議題に移ります。まず議題1、平成28年度健康福祉局・子供未来局の主要事業につきまして、事務局からご説明お願ひいたします。</p>
健康福祉局総務課	4月1日付けで介護保険課から異動となりました、健康福祉局総務課

<p>務課長</p>	<p>長の宮野でございます。本年度も引き続きよろしく願いいたします。それでは私から平成 28 年度健康福祉局の主要事業等につきまして、お手元の資料 1 に基づき、ご説明を申し上げます。恐れ入りますが、座って説明させていただきます。</p> <p>1 ページ目をお開きください。健康福祉局の組織図でございます。今年度は上から 2 つ目の部、生活再建推進部を新設しております。震災で被災された方の住宅再建を中心に、復興事業がほぼ完了しましたのを受け、廃止となった復興事業局から生活再建推進室と仮設住宅室を移管したものでございます。今後とも関係機関・団体の方と連携しまして、継続的な生活再建支援を行ってまいります。</p> <p>次に 3 ページからが区役所の組織図でございます。4 ページの太白区保健福祉センター保護課におきまして、保護世帯の増加に対応し、今年度から 4 係から 5 係体制となっております。またおめくりいただきまして 6 ページ、平成 28 年度健康福祉関係の予算でございます。</p> <p>健康福祉費といたしまして、健康福祉局・子供未来局などの予算を合算した形で掲載しております。6 ページの表、上の太字の部分ですが、28 年度一般会計の健康福祉費は総額 1,895 億円余でございます。高齢保健福祉費や児童保健福祉費の増加によりまして、前年比 4.3% の増となっております。</p> <p>尚、仙台市全体の一般会計歳出総額はこの表の一番下の段、一般会計歳出総額にございますとおり、5,066 億円余ということで、復旧復興事業費の減少などによりまして、前年度比 6% の減となっております。下の円グラフの本市全体の一般会計予算のうち、健康福祉費が 37.4% と、こちらは平成 12 年度以降、一貫して歳出費目の中で最も多くを占めているという状況でございます。以下、土木費、教育費の順となっております。</p> <p>7 ページをお開きください。上の円グラフが健康福祉費の歳入歳出の内訳となっております。外側の円、歳出では児童保健福祉費が 724 億円余と、約 4 割と最も多く、次いで生活保護費、高齢保健福祉費、障害保健福祉費の順となっております。また下の表は健康福祉局・子供未来局で所管する 5 つの特別会計事業の金額でございます。予算総額は 5 事業合わせまして、1,950 億円余となっております。</p> <p>続きまして 8 ページから今年度の主要事業の説明でございます。時間も大変限られておりますので、新規事業等の主だった項目のみご説明をいたしますので、詳細につきましては後ほどご高覧をいただければと存じます。</p>
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

はじめに1の地域福祉の推進でございますが、本年3月に策定いたしました支え合いのまち推進プラン第3期仙台市地域保健福祉計画等に基づきまして、住み慣れた地域で自立し、充実した生活を送ることができる地域社会の実現に向けて、こちらの(1)から(3)に掲げる各種施策を引き続き推進してまいります。

9ページをお開きください。障害者保健福祉の推進につきましては、本年4月施行の仙台市障害を理由とする差別をなくし障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例、こちらに基づきまして、(1)の障害者差別解消のところに掲げます、障害及び障害者への理解を促進するための普及啓発の実施、また紛争解決のための調整機関の設置などの体制整備に努めてまいります。

このほか10ページの中ほど(5)障害児の療育・介護の支援、また(6)の障害者の就労支援、また11ページに移りまして3、障害者施設整備等で新規事業の予算を計上しておりまして、障害者福祉施策を推進してまいります。

続きまして12ページの4、高齢者保健福祉の推進でございます。平成27年3月に策定をいたしました仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に基づきまして、計画の基本目標であります高齢者がその尊厳を保ち、健康で生きがいを感じながら、社会を支え続けるとともに、支援が必要になっても地域で安心して暮らすことができる社会の実現、こちらに向けまして、引き続き各種施策を推進してまいります。

(2)の地域における支え合いの体制づくりでは、①のところでは地域包括支援センターの機能強化のため、市内50カ所すべてのセンターに専任職員を配置いたしますほか、多職種連携による地域包括ケアの体制づくりを進めていくとともに、平成29年度から実施予定としております新しい総合事業の円滑な実施に向けまして、モデル事業等を実施してまいります。

また(3)の認知症の方の対策につきましては、③地域見守り体制の充実ということで、新規事業といたしまして、SOSネットワークを活用した、認知症高齢者の方が行方不明になった際の、早期発見のための情報配信を行う事業なども開始をいたします。

続きまして14ページのほうをお開きください。7の市民健康づくり推進についてでございます。市民の皆様が心身ともに健康で安心して暮らすことができるよう、健康づくり等の各種施策を推進してまいります。

(1)のいきいき市民健康プラン推進等ですが、第2期のプランの重点戦略といたしまして、①の生活習慣病予防から④まで、こちらの4つの

	<p>分野を柱に各種施策の取り組みを進めてまいります。また新規事業として平成 30 年度からの第 2 期プランの後期計画策定に向けた健康意識調査ということで、⑥のところで計上をしております。</p> <p>(2) の総合健康診査等でございますが、こちらでは市民健診の受診率の向上等に資する台帳システムの整備のための予算も計上しております。(3) の感染症予防では国の緊急肝炎ウイルス検査事業に基づきます無料の肝炎ウイルス検査、こちらを実施してまいります。</p> <p>次に 15 ページをお開きください。8 の防災・減災対策の推進についてでございます。(1) の②妊産婦福祉避難所ということで、本年 4 月に新たに市内の 2 カ所の看護師養成施設と妊産婦の福祉避難所としての協定を結びまして、指定をしたところでございます。こちらの備蓄物資の補助事業を実施するものでございます。</p> <p>9 の救急体制整備事業についてでございますが、(3) のかかりつけ医の普及啓発を効果的に行うため、在宅医療の実施状況等の地域医療資源の調査、こちらの経費を計上しております。また 15 ページ 11 の暮らしや経済の再建に向けた取り組みでございますが、復興計画期間は終了いたしました。引き続き被災者の方々の実情に応じた、さまざまな支援を継続してまいります。</p> <p>心のケアを含む健康支援、また高齢の方々への介護予防運動教室の実施のほか、被災者の生活再建支援につきましても、16 ページに掲げました各種施策を実施してまいることとしております。大変駆け足でございましたが、平成 28 年度健康福祉局の組織と主要事業の概要は以上となります。</p> <p>これらの事業の推進には委員の皆様、また皆様の属する関係団体様との連携というものが不可欠でございます。今後とも引き続きご協力を賜りますようお願いを申し上げまして、ご説明を終了させていただきます。</p>
<p>寶澤委員長</p>	<p>はい、ありがとうございました。引き続き、子供未来局からご説明お願いいたします。</p>
<p>子供未来局総務課長</p>	<p>子供未来局総務課長の利でございます。4 月から総務課長になりました。どうぞよろしく願いたします。それでは私のほうからは、子供未来局の今年度の組織と主要な事業の内容につきまして説明させていただきます。着座で説明させていただきます。</p> <p>まず今年度の組織でございますが、ただいまご覧いただいております資料 1 の 2 ページ目をご覧ください。子供未来局は昨年度と同様に、地域における子育て支援事業や児童クラブの運営整備、子育てや子どもからの相談などを担当しております子供育成部と、市立保育所の運営や</p>

私立の保育所や幼稚園に対する助成などを担当しております幼稚園・保育部の2つの部と、児童の一時保護などを行っております部相当の児童相談所で構成しております、その下に合わせて7つの課と1つの室、1つのセンターがございます。

昨年度と変更となっておりますのは、児童クラブ事業推進室に新たに推進係という係を新設し、係制としましたこと、また市立の保育所の数が42カ所から2カ所減って、40カ所となったことでございます。体制全体としては今申し上げたとおり、大きな変更はなく、引き続きこの体制で業務を行ってまいります。

続きまして子供未来局の今年度の事業の主要なものにつきまして、ご説明させていただきます。資料1の17ページをご覧ください。子供未来局では、平成27年3月に策定いたしました仙台市すこやか子育てプラン2015で掲げております、未来を担う子どもたちがすこやかに育つまち仙台という基本理念の下、この理念を実現するにあたっての、3つの柱を設定しております。

その1つ目が資料の17ページの(1)として記載しております、子どもが明るく元気に育つ環境づくりでございます。この分野につきましては、①に記載しておりますとおり、通常の児童館の運営管理に要する経費、約27億5千万円のほかに、落合・若林区中央・西多賀の児童館の建設改築などの児童館整備に約7億8千万円。児童クラブの受け入れ拡大のために、児童館以外の場所での児童クラブ児童の受け皿となる、サテライト室の運営などに関する経費を約5億円。

そのほかにも②の障害のある子どもなどの支援、児童虐待防止対策、養護を必要とする児童への対応につきましても、予算を計上いたしまして、総額でこの分野につきましては、昨年度の約35億円から、今年度は約43億円に増額してございます。

次に2つ目が(2)として記載しております、安心して子育てができる社会づくりでございます。①の保育基盤等の整備では、認可保育所や認定こども園、地域型保育事業などの整備等の補助や、私立保育所への助成などを行っていきますほか、次のページの⑦にございますが、子育てに関する経済的負担の軽減といたしまして、児童手当や子ども医療費の助成などを行っております。この分野につきましても総額で、昨年度の約517億5千万円から、今年度は534億1千万円に増額となっております。

最後の3つ目でございますが、19ページに(3)として記載しております、子どもと子育て家庭を応援する地域づくりでございます。これは

ご家庭で子育てなさっている皆様への支援でございまして、子育てふれあいプラザ若林の整備やそのほかの子育てふれあいプラザの運営費をはじめとしまして、地域の皆様による子育て支援に関する予算を計上いたしております。総額で昨年度の約2億9千万円から、今年度は約4億5千万円にふえてございます。

これらの3つの分野を合わせますと、昨年度の総額約555億5千万円から今年度は約581億8千万円と、約4.7%増額しております。すこやか子育てプランの推進を図ってまいりたいと考えてございます。

全体としては以上でございますが、また最後に今年度の新規の事業をいくつか紹介させていただきます。18ページをご覧ください。18ページの③の2番、地域限定保育士試験の実施でございますが、これは保育士の確保のために、年1回の従来の試験実施に加えまして、地域限定保育士という形で、年にもう1回試験を実施するものでございます。

次に⑥の1番、妊婦・出産包括支援事業でございますが、これは妊婦や出産時における包括的な支援といたしまして、区役所・総合支所の母子保健担当部署、これを子育て世代包括支援センターと位置づけまして、妊産婦への必要なサービスをしっかりとコーディネートし、切れ目なく行うものでございます。

次に19ページをご覧ください。⑨の2番、子どもの貧困対策にかかる調査でございます。これは今後取り組んでいくべき、子どもの貧困対策につきまして、その充実強化を図っていく上で、まずは本市における現状の把握、それと分析を行いまして、それに基づきまして課題の整理などを行うものでございます。

そして最後になりますが、同じ⑨の3番、児童養護施設等入所児童自立支援でございます。これは児童養護施設などに入所している児童に対しまして、就職活動前に職業観の育成や就業体験などの機会を設けるほか、就職して施設を退所した後も、その児童のフォローを行うなど、児童の社会的自立に向けた支援を行っていくものでございます。

以上、新規事業についてもいくつかご説明させていただきましたが、これらと従来からの継続してまいります事業とを合わせまして、本市がすこやか子育てプランで掲げております、次代を担う子どもたちが健やかに成長し、子育て家庭が安心して、子どもを産み育てることができるまちづくりを進めてまいりたいと思っております。

子供未来局の平成28年度の事業概要等につきましては、以上でございますが、昨年度に引き続き、委員の皆様方、関係団体の皆様方にはぜひ子供未来局の事業に対して、ご協力いただきまして、一緒になって推進

	を図っていただければと思います。私からは以上でございます。
寶澤委員長	<p>はい、ありがとうございます。今、課長からもありましたとおり、みんなで意見を出し合って、いいものにしていければということでございますので、今ご報告がありました主要事業につきまして、委員の方から何かご意見、ご質問はございますでしょうか。丁寧に説明をしていただいて、すべて大事な事業だと思いますが、今年特にこれまでの経緯を含めて、ここは注意してやっていきたいというところ、各課1つ2つくらいで結構ですので、重点的にここはがっちり成果を上げていきたいと思っているところがありましたら、教えていただけますか。</p>
健康福祉局長	<p>私から、健康福祉局について、大体全般的にお話しいたします。1つは先ほど子供未来局のほうから貧困対策ということが出ましたが、法律の施行、昨年4月から法律が施行されまして、低所得者対策はひとつ力を入れていきたい。特に就労の点でハローワークさんとも連携しながら、就労に結びついていない低所得者の方々へ結びつけるような取り組みを、一緒になって進めていきたいというのが1つございます。</p> <p>それから2つ目として高齢者の関係でございますが、介護保険事業で来年4月から新しい総合事業ということで、要支援の方に特化したさまざまな取り組みを国から求められております。本市としても、介護サービスの事業のサービスの、その中味を若干緩和したようなサービスも新年度からスタートしたい、あるいはさまざまな事業者が参入できるスキームを構築したいということで、今関係団体とも協議して進めてございます。これは今年度、特に力を入れていかなければならない施策だと考えてございます。</p> <p>それから保健衛生の分野でございますけれども、何点かありますが、1つは先ほどあいさつの中で申し上げました市民の健康についての意識調査、これが今後の施策展開にあたっての基礎資料になりますので、基礎調査の内容も含め、充実して取りまとめしていきたいということ。</p> <p>それから食品衛生の関係で申し上げますと、一般的な食品衛生法に基づきます事業者許可制度、これは従前からございますけれども、さらに一歩進んで HACCP、場面場面で段階的にチェックしながら進めていくという HACCP 制度がございまして、国のほうから本市がモデル的に事業の推進を図るということで、補助金をいただきましたこともあり、事業者とともに、該当する事業者だけでなく、市内のさまざまな事業者にも波及できるような仕組みづくりを進めていきたいと考えてございます。</p> <p>このほかにも、先ほど申し上げました感染症対策ですとか、さまざまございますが、今申し上げたような内容が、特に重点的な部分かなと考</p>

	<p>えてございます。</p>
寶澤委員長	<p>ありがとうございます。すごく大事な点だと思います。ぜひ、重点的にやった成果が、何か客観的な指標で、例えばハローワークとの連携で、職に結びついた人が何人いたとか、そういった数値的なものだったり、要支援のところでこういったことを求められて、こういった成果がありましたというようなものを、来年度のこの会議なのか、もう年度後半には成果が上がっていて年度内なのか、ご報告いただけると嬉しいのかなと思いました。ぜひお進めいただきたい。先生方、ほかにありますか。</p>
駒形委員	<p>質問なのですが、7ページのこの円グラフのところですが、そこで生活保護費が16.5%と、高齢者の保健福祉費よりも多い内訳となっておりますが、高齢者の場合は今後仙台市の人口などを踏まえて、どれくらい伸び率が上がっていくかというのはもう大体予想がついて、平成何年度はどうかというのは、いろいろ資料を見させていただいているんですが、この生活保護費はここ最近、どれくらいの伸びがあるのか、またこれに対して、いろいろ生活困窮者の自立支援施策がありますが、実際問題、それがうまくいって、生活保護費のこのパーセンテージをある程度抑えているのか、私の患者さんなども、以前に比べて大分生活保護の患者さんが多くなってきているというようなイメージがあるので、それがただのイメージなのか、現実問題そうなのか、を含めて説明をお願いいたします。</p>
健康福祉局長	<p>概略的に申し上げますと、生活保護世帯は増加しております。これは仙台市だけではなく、毎月発表される厚生労働省の統計でも、過去最高を更新したという記事がここ2年くらい続いておりますので、全国的な傾向であろうと考えてございます。</p> <p>高齢者の予算が14.2%ということで、この円グラフを見ると、生活保護費のほうが高く、高齢者の関係が低いように見えますが、その下にございますように、介護保険事業ですとか、75歳以上の後期高齢者医療ですとか、あるいは国民健康保険も多くは65歳以上の高齢者という部分もございまして、全体としてはやはり、特別会計も含めると、高齢者の予算は多いということはございます。</p> <p>ただ、高齢者につきましては、高齢化率の上昇ですとか、あるいは絶対数の上昇ということで、予算は今後とも引き続き必要になろうと考えてございます。</p> <p>一方、生活保護費、最近ですとリーマンショック後の経済不況ということで、大変急激に生活保護を受ける方が増えたということもございまして、ただ、仙台市は微増というか、ほぼ横ばいくらい、若干増えてはご</p>

	<p>ざいますが、それほど急激に伸びている、生活保護世帯が伸びているという状況ではございません。</p> <p>引き続き、先ほど申し上げましたように、低所得者へのさまざまな施策ですとか、あるいは生活保護世帯にも特に40代50代の方を中心に、就労に結びつくような施策を進めまして、できるだけ生活保護、セーフティネットといわれますけど、そこに入る前に、さまざまな手立て、施策を進めていかなければいけないと考えてございます。</p>
寶澤委員長	ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。どうぞ。
片倉委員	<p>片倉です。先ほど介護保険のことで、要支援に特化したサービスを重点事業ということで、お伺いしました。地域包括支援センターの動きとして、仙台市として生活支援の事業内容をどのようなスパンというか、動きを考えているのか、今年度中の見通しというのがおわかりでしたら、教えていただきたいと思います。</p> <p>というのは実は今、私仙台市さんの地域包括2カ所から依頼を受けて調整が始まっているんです。そうしますと担当者がとても不安だ、不安だって、全くどんなふうにしたらいいかわからないということで、どこでも不安を抱いている様子で。それでどういような流れでスタート、始めようという動きが上のほうではあるのかなと疑問を持って今スタートしておりましたので、その辺りおわかりでしたら教えていただければと思います。よろしくをお願いします。</p>
保険高齢部長	<p>私のほうから回答させていただきたいと思います。ご質問いただきました要支援者の方に対する、今現在の介護予防のホームヘルプサービスと、あとはデイサービス、これが総合事業に移行するという形で、仙台市では来年の4月からの移行と条例で定めさせていただいております。</p> <p>国が定めております介護保険のサービスのうち、要支援の方に対するホームヘルプ・デイサービスが、原則来年の4月からなくなりますので、それに代わるサービスということで、仙台市が基準ですとか、報酬などを定める作業が今年度必要になってまいります。</p> <p>今現在、内部的な作業を進めておりまして、実際のその事業を行っておられる団体の方々に、私どもの素案などをお示ししながら、意見交換させていただいて、私どもとしての案を早急に取りまとめをさせていただいて、それを提示させていただきながら、来年の4月に円滑な移行ができるように進めてまいりたいと、そのように考えているところでございます。</p>
片倉委員	はい、ありがとうございます。
寶澤委員長	よろしいですか。それでは続きまして、議題2の第2期いきいき市民

	<p>健康プランに基づく事業につきまして、事務局のほうからご説明お願いいたします。今年度が第2期いきいき市民プランの6年目ということで、仙台市関係団体の皆様にはそれぞれの立場で、市民の健康づくりのためのさまざまな取り組みを進めていらっしゃるのところかと思えます。</p> <p>プランに基づき、これまでの実績を踏まえながら、今年度どのような事業に取り組んでいくかということ、それぞれご報告をいただき、その上で意見交換をと思っております。では順番に仙台市の取り組み、関係団体の取り組み、平成28年度食品安全性確保対策についての順でご報告いただこうと思えます。まず仙台市の取り組みにつきまして、資料2に基づきまして、事務局のほうよりお願いいたします。</p>
健康政策課長	<p>この4月に健康政策課にまいりました小林でございます。よろしくお願ひいたします。私からは平成28年度における仙台市全体の取り組み概要についてご説明をします。資料2とお手元に恐れ入ります、参考資料2もお手元にご準備をいただければと思ひます。それでは着座にて説明させていただきます。</p> <p>資料2の1ページ目をご覧ください。第2期いきいき市民健康プランでは基本理念を壮年期死亡や要介護状態を予防し、健康寿命を延ばすことを目指すとし、人と人とのつながりを生かした健康づくりの輪を広げることとしております。</p> <p>平成28年度の取り組みにつきましては、29年度の間評価を前に健康づくり指標にかかる各種調査を実施しまして、市民の健康状態や意識などの変化を把握するとともに、各重点分野におけるこれまでの取り組みの課題を整理し、健康指標の目標値に近づくよう、後期計画策定を視野に入れながら、取り組みを強化してまいります。</p> <p>2ページをご覧ください。3段目になりますが、東日本大震災から5年が経過し、復興公営住宅の入居や自宅再建が進み、生活再建を果たした被災者が多くなつてはいますが、生活環境の変化に伴い、健康状態の変化も予測されることから、関係団体等との連携の下、個別に対応した健康支援を集約された仮設住宅入居者も含めまして、支援を継続してまいります。</p> <p>次に重点分野に沿った取り組みの主なものを説明をさせていただきます。重点分野1、生活習慣病予防についてでございます。健康づくりやがん予防につきましては、健康課題の多い働き盛り世代を中心に、受診率向上を目指し、各協定を締結している企業や団体の皆様と連携した啓発に取り組むたいと思っております。</p> <p>参考資料の7ページをご覧ください。がん対策につきましては、こち</p>

らの4、壮年期のがん死亡状況の資料がございますが、壮年期のがん死亡率は仙台市におきましても、年々低下している傾向は見られますが、壮年期の死亡というのは重大と考えておりまして、この死亡率をさらに低下していくようなことも視野に入れながら、対策に取り組んでまいりたいと思っております。

その下に40歳から60歳のがんの部位別の死亡率の推移がございます。女性では乳がんの死亡率が平成26年26.6ということで、ほかのがんに比べると、非常に高くなっております。それでがん対策につきましては、この死亡率が高い乳がん若くは若い世代での罹患率の高い子宮頸がんターゲットを絞りまして、国の新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業に基づき、子宮頸がん検診、乳がん検診の対象者に自己負担が無料となるクーポンを配布するとともに、未受診者の方に対して受診勧奨を行う予定でございます。

資料2の2ページの2、循環器疾患・糖尿病等の発症予防の取り組みでございます。こちらは前回の会議でもご意見をいただいたところでございますが、運動も含めた身体活動に焦点を当てまして、生活習慣の改善に継続的に取り組む人がふえるような仕掛けづくりに取り組みたいと考えてございます。

今年度は働く市民の健康づくりネットワーク会議と連携をして作成をしました、通勤ウォーキングマップを広く周知させるほか、働く市民のネットワーク会議の場を活用しながら、働き世代の方の生活環境などを考慮しながら、具体的な取り組み方策の検討を進めてまいります。

また健康的な生活習慣は幼児期からの環境づくりが重要であることから、子育て世代に向けた情報発信など、各区保健福祉センターも含めまして、啓発を行ってまいります。

3ページをご覧ください。特定健診・基礎健診については、受診率向上や保健指導の利用率向上に取り組み、要医療と判定された方への受診勧奨の手法を工夫しながら、取り組んでまいる予定としております。

次に重点分野2、心の健康づくりについてでございます。こちらでもまた参考資料の11ページで自殺者数の推移で、仙台市における自殺者数は最近では減少するような傾向にございます。しかしながら12ページの真ん中の表を見ていただきますと、年代別の自殺者数がございますが、仙台市の特徴としましては、20代や40代という若い世代での自殺率が高くて、高齢者では少ないというような特徴がございます。

このような状況を踏まえまして、仙台市の心の絆センターが取り組む、大学生による心の健康づくり啓発活動や、専門学校と連携した取り組み

として、大学や学校と連携した取り組みを進めてまいることにしております。

資料2に戻っていただきますが、また震災後の心の健康問題は長期的な視点で取り組むことが重要と考えておりまして、被災者健康支援や生活再建支援と連動して、引き続き取り組んでまいる予定でございます。

ページをおめぐりいただきまして、4ページの重点分野3、健康的な食生活と歯と口の健康づくりについてでございます。健康的な食生活につきましても、食に関する知識や選択する力を身に付け、健康的な食習慣の実践ができるよう、食育推進計画第2期と連動して啓発を行います。

1、食への関心を高める働きかけとして、児童館や保育、教育機関等の連携による食育活動を進めるほか、大学生の食育プロジェクトで作成した減塩を目指した塩エコロゴマークを活用し、子育て世代と学生を対象として、情報発信を行います。3の健康づくりの実践のための環境整備としましては、食で健康サポート店の登録促進の健康づくりにご協力いただく飲食店がふえるよう、ターゲットを絞り、働きかけてまいります。

5ページをご覧ください。重点分野の歯と口の健康づくりについてでございます。参考資料を見ていただきまして、9ページでございます。

6の歯科保健統計ですが、子どものむし歯は年々減少しているというのは、仙台市も全国的に見ても、傾向は同じでございますが、1歳6カ月健診におきましても、3歳児歯科健康診査におきましても、仙台市のむし歯の数は全国、あるいは政令指定都市の間で比較しても、非常に悪い状況になっている状況でございます。

資料2にお戻りいただきまして、そのような状況から乳歯が萌出する時期から、関係団体や大学との協働による子どものむし歯予防対策の推進体制の整備に努めてまいる予定でございます。具体的には1の3歳児カリエスフリー85プロジェクトの推進は、むし歯のない3歳児が85%以上となることを目指すものでございます。

昨年度からスタートしておりまして、小児科での8～9カ月の乳児健診において、啓発媒体「★せんだい★でんたるノート」を配布したお子さんが、今年度は1歳6カ月健診を受診するということとなりますので、継続した保健指導により、かかりつけ歯科医で定期的な予防管理を受ける習慣の定着を促してまいります。

3、歯周病予防につきましても、今年の8月より新たに地域の歯科医院で、妊婦歯科健診が個別受診できる制度を創設しておりまして、個々の状況に合わせた保健指導の充実を図る予定になってございます。

	<p>次に重点分野4の防煙・禁煙・分煙についてでございます。資料は6ページをご覧ください。1、受動喫煙防止対策の推進でございますが、平成26年3月に策定しました受動喫煙防止対策ガイドライン等に基づき、たばこによる健康被害から市民を守り、多くの人が健康で快適に過ごすことのできる受動喫煙防止の環境づくりの取り組みを進めてまいります。</p> <p>具体的には職場や飲食店等における環境整備を進めるための、受動喫煙防止を宣言する施設の登録制度を昨年度開始しましたので、今年度は飲食店等、家族連れが多く利用する施設をターゲットに、登録施設の増加に向けて取り組みたいと考えてございます。</p> <p>次に重点分野5につきましては、健康安全課より説明いたします。</p>
<p>健康安全課感染症対策係長</p>	<p>引き続き感染症対策係長の鈴木より重点分野5の感染症予防の主な項目についてご説明いたします。よろしくお願いたします。6ページをご覧ください。仙台市では仙台市医師会・東北大学・関係医療機関などで構成する仙台市感染症メディカルネットワーク会議において、感染症の流行状況などについて、最新の知見を共有するとともに、対応方法について協議を行っております。</p> <p>昨年度は中東呼吸器症候群 MERS が韓国において、感染拡大したことを受けまして、MERS 疑い患者が診療所を受診した際の対応フローを作成したところです。今年度もジカウイルス感染症などについて、情報共有を図るとともに、必要な対応を検討してまいります。</p> <p>7ページをご覧ください。次に蚊媒介感染症対策でございます。市民向けにデング熱や南米を中心に感染が確認されているジカウイルス感染症などの流行状況、予防法や蚊の発生源対策について、ホームページや講演会の開催などにより、情報提供を行ってまいります。また蚊媒介感染症対策の基本情報とするため、昨年度に引き続き、今年も市内の主な公園等6カ所で、5月から10月まで蚊の生息状況調査を実施し、その結果を公表いたします。</p> <p>続きまして2、予防接種事業についてご説明いたします。子どもの定期予防接種を仙台市内、及び宮城県内の登録医療機関において、無料で実施しておりますが、子育て支援の観点から、里帰りなどで県外の医療機関で定期予防接種を受ける方への費用助成制度を、今年度4月から開始しております。本日までにこの制度を利用して、9件の申請を受けつけたところです。</p> <p>次にB型肝炎ワクチンが今年の10月より定期予防接種となる予定です。対象者は平成28年4月1日以降に生まれた方で、1歳になるまでの</p>

	<p>間に3回接種を受けることとなります。今後、接種対象となる1歳未満の乳幼児の保護者等への個別通知や、ホームページ等での情報提供を行うなど、接種機会を逃すことがないように、制度の周知に努めてまいります。</p> <p>また個人ごとの予防接種履歴を把握することによって、未接種者への効果的な接種勧奨を行うために、平成29年9月の稼働を目指し、予防接種台帳システムの整備を進めております。</p> <p>もう1点、3、検査体制や相談カウンセリングの充実でございますけれども、本市で実施しているAIDS性感染症検査について、検査予約の利便性の向上のため、昨年11月より電話に加え、インターネットでの予約を開始しております。また青葉区役所での夜間検査では6月から梅毒検査を追加し、通年でHIV・クラミジア・梅毒の3項目検査を同時に受けられることとなります。</p> <p>さらに検査を受けられる方をふやすために、市民協働事業提案制度により、東北HIVコミュニケーションズと連携し、HIVの検査状況を提供している仙台HIVネットの内容を充実させるとともに、スマートフォンアプリ向けの広告を出すなど、インターネットを活用したHIV検査の普及啓発に取り組んでまいります。重点分野5については以上でございます。</p>
健康政策課長	<p>それでは続きまして、各保健所支所・保健福祉センターの取り組みについて特徴的な取り組みを中心に説明いたします。資料2の8ページをご覧ください。</p> <p>青葉区保健福祉センターでございます。把握している区の健康課題としましては、3歳児健康診査で肥満割合が増加しており、1歳6カ月健診において、既に乳幼児用のジュースなどの甘味飲料が習慣化しているという状況が見られ、専門学生の食のアンケート結果でも甘味飲料摂取が多いという状況に注目し、計画の重点分野1では子育て世代へのアプローチとして、学齢期の子を持つ保護者や親子への健康教育を、市民センターや小学校と連携しながら実施することにしております。</p> <p>具体的には小学生の親子を対象に、食品に含まれる砂糖の量をテーマに、お菓子のカロリーチェックや砂糖の量のクイズなどの実習も織り交ぜながらの講座、睡眠をテーマに睡眠不足が健康や生活に及ぼす影響について、リラックス体操やストレッチを織り交ぜながらの講座などを予定しております。</p> <p>また区の健康課題では、平成27年度の自殺率は青葉区では前年度より減少しておりますが、仙台市全体の自殺率に比べると、高い数値となっ</p>

ており、年齢別でも20～30代に多くなっています。

青葉区は大学や専門学校が集中しており、通学する学生や入学を機会に親元を離れて、区内で一人暮らしを始める学生も多いことから、平成21年度から若い世代の健康づくり支援事業として、学校と保健所が連携した取り組みを行っております。

この事業は健康管理に関して、学校保健法などの法的根拠がない専門学校を対象として、学校と保健所が連携し、学生の健康教育や健康に関するイベントの開催を通しまして、学生自らが積極的に健康づくりに取り組んだり、あるいはさらには学生独自で健康づくりに取り組むことができる、ということを目指して事業を展開をしております。

この事業には平成25年度から心の健康に関するメニューも取り入れ、専門学校教職員を対象とした講演会やセミナーの開催、学校への訪問による研修会の実施などに取り組んでまいります。

今年度は専門学校教職員対象の青年期メンタルヘルス研修会を継続して実施するとともに、先生方へのアンケート調査なども行いながら、ニーズの把握やこれまでの取り組みの検証も行い、今後の取り組みにつなげていく予定でございます。

9ページをご覧ください。宮城野区保健福祉センターでございます。区の健康課題の中でも②復興公営住宅等への転居や浸水地域での生活再建が進み、健康支援も継続しておりますが、生活環境の変化によるストレスの影響により、心身に悩みを抱える被災者は少なくない状況でございます。

また③ですが、この2～3年、出生率が県内で最も高く、乳幼児を抱える世帯の転入もふえ、乳幼児や子育て世代の人口が多いことから、子どものすこやかな成長促進、子育て世代への健康や育児の支援が重要と考えております。育児不安などの母子保健相談が急増しており、若年妊娠・出産、貧困、虐待等、養育に問題を抱える家庭が多く、個別のニーズに応じた支援も求められている状況でございます。

このような状況を踏まえ、今年度の計画では①ライフステージに応じた効果的な健康教育を関係機関や団体等と連携、協働して、推し進め、②地域のさまざまな社会資源やネットワークを生かし、支え合いや交流を通じて、継続支援することとしております。

具体的には重点分野1において、老人クラブ活動や町内会、地区社会福祉協議会、地域包括支援センターなどと連携し、健康講話や健康講座を共同で催すほか、支え合いにより、地域の活性化を図ってまいります。

重点分野2におきましては、震災こころのケア事業・抑うつ高齢者地

域ケア事業・こころの健康づくり事業を継続推進するとともに、浸水地域被災者支援としまして、全戸訪問による現状把握とニーズに応じた支援を展開してまいります。重点分野3においては食育サポーター養成講座やスキルアップ研修等を実施し、食育グループの活動を広げるための支援を行ってまいります。

重点分野5におきましては、特に幼児期から習慣的に感染症予防行動を身につけるということを目指しまして、宮城野区健康づくりキャラクター「みやびょん」が登場する紙芝居などの教材を使って、幼児や児童にわかりやすい予防教育に取り組みます。

10 ページをご覧ください。若林区保健福祉センターでございます。区の健康課題として特定健診において、BMI の割合やヘモグロビン A1c が高い方が多い状況にあり、乳幼児健診においても、子どもの肥満やむし歯が多い傾向にあることも大きな課題として捉えております。

被災者の生活再建が進む中で、個々の生活上の問題に格差が見られ、高齢者の孤立や心の問題、中高年単身者のアルコール問題は大きな課題と捉えております。今年度の計画としましては、生活習慣病予防に力を入れ、いきいき市民健康プラン策定当初から継続して取り組んでおります。若林区の区民健康づくり会議の力をさらに発揮して取り組んでまいります。

特に健康づくりキャラクターわかちゃんが昨年度、着ぐるみとなって誕生したことから、子どもから高齢者まで効果的な健康づくりを実践をしていく考えでございまして、区民会議の寸劇による啓発では各重点分野の健康課題に合わせて、シナリオをつくり直しているところでございます。

また重点分野2ではアルコール問題の事例検討会など関係機関との連携により、開催をしており、地域での支える側の仕組みづくりに取り組んでまいります。

重点分野3では子どもからの肥満問題を考慮し、学校との連絡会議でも、乳幼児からの食生活への意識づけが重要との意見をいただいておりますので、子どもの施設などを対象とした食育情報交換会をはじめ、地域での啓発を工夫していく予定でございます。

重点分野4では小中学生のポスターコンクールを通じた、たばこの健康影響の啓発と、さまざまな団体との連携を進めてまいります。また被災者健康支援におきましては、通常地域保健活動の中での被災者健康支援の取り組みを意識しながら、長く続けていかなければならないということも、検討しながら進めていく考えでございます。

11 ページをご覧ください。太白区保健福祉センターでございます。区
の健康課題としてメタボリックシンドローム該当率が高い傾向や、高血
圧・糖尿病の割合が高く、特に男性は30代から、高血圧・糖尿病・脂質
異常症の所見が上昇する傾向にあります。また若い世代からの生活習慣
病予防の取り組みも進めていく必要があると考えております。

今年度の計画策定の視点としましては、働き世代を中心とした生活習
慣病予防の取り組みや、子育て世代からの健康的な生活習慣に向けた取
り組みを児童館と連携し、健康教育に活用できる媒体を児童館職員も活
用できるよう工夫しながら進めてまいります。

重点分野1では健診後の検査値高値者への受診勧奨や、消防団などの
各団体と連携した啓発に取り組んでまいります。重点分野2では太白こ
ころささえちゃん事業として、被災者支援の関係者向け講座、理美容師
対象の講座を継続実施するとともに、対象者を若い世代にも広げた検討
を進めてまいります。

重点分野3・4では保育所や学校における調査結果から、子どもが朝
食を食べていても、野菜を食べていないというような、食事の内容に偏
りがあることから、幼稚園や学校、大学と連携した食育活動、モーベジ
の活動の展開を推し進めるとともに、地域とともに育む子どもの健康づ
くり事業として、幼稚園・保育所・児童館などと連携した食育、むし歯
予防、防煙教育などの事業に取り組んでまいります。

12 ページをご覧ください。泉区保健福祉センターでございます。区
の健康課題として高齢化率が高い状況でございますが、特定健診受診率
が高く、健康意識の高さが伺える一方で、若い世代の受診率が低い状況
にあります。今年度の計画では若い世代や働き世代の健診受診率向上と、
生活習慣病の予防、重症化予防を図るために、商工会や大型商業施設、
大学などの連携により、若い世代への働きかけを進めるほか、乳幼児期
や学童期からの生活習慣の確立を目指して、取り組みを進めてまいりま
す。

具体的には重点分野1では、商業施設や関係団体の連携による健康増
進に関するイベントや講座を開催いたします。重点分野3では児童館・
児童センター・大学等と連携した食の体験型事業を実施するとともに、
子育て世代と食育ボランティアの交流、及び活動の活性化を支援してま
いります。

重点分野5ではHIV感染症対策としまして、大学や専門学校等との連
携を図るとともに、大型商業施設や市民健診会場などの場を活用して、
情報発信を行い、正しい知識の普及啓発を図ってまいります。各区の取

	り組みにつきましては以上でございます。
寶澤委員長	ありがとうございます。何かご質問ございますでしょうか。はい、お願いします。
橋本委員	<p>3歳児の、青葉区の取り組みの中にちょっと出た、8ページについて、甘味飲料の習慣化という話が出ていますが、今アメリカは小学校や中学校の自動販売機では、甘い飲み物は売れないようになっています。だから半分は水、半分は100%ジュース。とにかく砂糖の入っているものは子どもに飲ませないというような方向になっていて、実際に糖質制限という考え方が、最近糖尿病学会でも取り入れられています。そういうのを見ていますと、砂糖をとる、しかも液体の砂糖をとると、グルコーススパイクと言って急激に血糖値が上がるといこともわかっていますので、そういうのが肥満につながっていくし、血管を傷つけるということがわかっています。ですから、特に子どもについては、そういう甘いものをとらせないような、やはり教育というか、そういうものが必要になってくるかなと思います。</p> <p>アメリカのニューヨークだと今度、例えばコカ・コーラなども100オンス以上販売すると罰金取るとかですね、そういう傾向になっていますので、たばこの制限もそうですが、やはり甘いものについてもそうやって少し制限を加えるようなことを、仙台市でも先がけてやっていくということも、少し考慮に入れておいてもいいのではないのでしょうか。</p> <p>若林区も結構な数の糖尿病の患者さんがいらっしゃいます。やはり糖尿病の多い県は、日本で見ていくと四国のうどんをよく食べているようなところなどが、糖尿病の発生率がとても高くて、やはりそういう炭水化物を多量にとるところが、そういう傾向がありますので、そういうところを少し制限するというのを健康教育の中で少し考えていくような時代になってきたんじゃないかなと思います。</p>
寶澤委員長	ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。はい、片倉先生、どうぞ。
片倉委員	4ページの重点分野3の健康的な食生活というところの2行目に、仙台市食育推進計画第2期と連動して、幅広い年代に啓発を行うというふううにうたっております。この幅広い年代の啓発の仕方、方法をおわかりでしたら、教えていただければと思います。よろしくお願いします。
健康政策課長	食に関しましてはライフステージに応じて、どの年代においても大変重要な課題というふうに受け止めているところでございます。食育推進計画におきましては、仙台市の場合はいろいろな関係団体さんがそれぞれ特徴的な取り組みなども行っておりまして、例えば子どもの世代です

	<p>と保育所連合会さんなどの栄養士や所長さんたちが、本当に施設の中でいろいろな食育に取り組んでおりますし、各保育所には栄養士を配置をしているというところで、非常に手厚い啓発なども行っているところです。</p> <p>成人、学校保健でももちろんいろいろな啓発をしていますし、働き盛りのところの部分については、働く市民のネットワーク会議さんと一緒に連携して、いろいろな昼食のとり方の問題ですとか、あと残業をしているときの食事のとり方の状況なども踏まえながら、取り組みに生かしていければというふうに思っております。</p> <p>高齢者につきましては生活習慣病の重症化の部分と、低栄養の部分という視点の課題がございますので、高齢者施策における取り組みなども連動した取り組みをしていきたいと思っているところでございます。</p>
<p>寶澤委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。全般になんですけど、こういった重点分野で取り組みの方向性のようなものについて、例えば幅広い年代の実情がどうなっていて、それをどういった数値ぐらまで目標として上げていくかという点において、啓発やりました、きっとわかってくれたと思いますというよりは、結果がみえたほうがよいと思います。ただ、今このくらいの状況で、この世代、この世代、この世代で抜き出し調査やって、その後状況が変わって、そうやって全部に調査やっていくのは大変ですよ。</p> <p>重点、ここはやりたいと思っているところについては、数値目標とか、数値目標じゃなくてもいいですが、数値としての変化みたいなものが報告されると、啓発されて何%が何%になりましたっていう形になると、嬉しいのかなというふうには思いますので、ぜひご検討いただければと思います。</p> <p>すみません、私からも質問したいんですが、ちょうど若林区と宮城野区で糖尿病の重症化みたいなことを心配されていて、何か問題点の抽出みたいのところ、共通しているところがありますよね。センターをまたがって、何か一緒にやったり、太白区もメタボリックシンドロームって書いていますが、保健福祉センター同士で、こういったところがうちで問題になっているんだけどというように、情報共有されていることがあったら、教えていただきたいと思うんです。各センターの所長さんをお願いしたいのですが、宮城野区から順にお願いしてもよろしいでしょうか。</p>
<p>宮城野区保健福祉センター所長</p>	<p>仙台市も含めて全国的に特定健診の受診データを見ると、生活習慣に関わる疾病の対策が望まれているという状況でございます。それで仙台市保健福祉センター共通にそこのところが課題ということで出ているわ</p>

	<p>けでございまして、それぞれのセンターにおきましてもこのところを重点的に取り組むということで掲げております。</p> <p>特に生活習慣になりますので、小さいうちから食に対して、意識を持って、さらに行動変容というか、具体的にその知識を基に行動してもらおうというところまでいきたいと考えております。そのためには、子育てのサークルとか、保育所とか幼稚園とか、関係する機関と一緒に取り組み、また、こちらから出向いて行って、正しい知識と予防のための生活習慣について啓発をしているところでございます。</p> <p>さらには壮年期、高齢期のほうの対応も重要になってございますので、それぞれの地域で活動されている団体と、いろいろな健康講話など健康講座の中で一緒に地域の中で、健康づくりに取り組んでいるという状況でございます。</p> <p>それぞれのセンターの取り組み状況につきましては、専門職同士で情報を共有しながら、いいところはやっていくというところでございます。</p>
<p>若林区保健福祉センター所長</p>	<p>若林区でも生活習慣病には今年特に力を入れていきたいと思っております。データのなものも見ておりますけれども、若林区では幼児のほうの健診関係のデータ、それから学校さんと一緒に協議をしている場がありまして、その養護の先生方からのご意見などもいただいております。</p> <p>特に若林区の中でも被災されたという地区もあって、その支援をたくさんいただいて、生活習慣病からちょっと離れますけど、子どもたちにたくさん甘いものをいただいたというところでのむし歯関係のほうはどうなっているかなど、そういうところも見ながらやってまいりました。</p> <p>そのときに子どもの肥満の問題なんかも、逆に私たち保健福祉センターのところでは、なかなか見られない、つまり小学校・中学校といったところの状況がわからないところもあって、先ほど言っていた学校との連携協議の中で、養護の先生から本当に小さいときから取り組んでほしいというか、食に対する考えを、行政のほうからも強く取り組んでほしいという意見をいただいて、そのところにも力を入れていこうと思っております。</p> <p>また地域性もあって、今、小さい子どもを、若い夫婦が働いていておばあちゃんたちが見ているような状況がありますよね。そのときにおばあちゃんたちにとってはぽっちゃり型がかわいいし、それが元気なんだというような、そういうところもあったりするんです。そんな地域性というか、そういうところも見て、そこから生活習慣病の予防に取り組んでいかなきゃいけないかなというところで、今年度いろいろ考えていくところです。</p>

	<p>またそういうところっていうのは、若林区のそこだけというのではなくて、ほかの区の保健福祉センターさんのところでも、地域によっていろいろとデータなんかも見て、取り組んでいるところもあるので、例えば宮城野区さんのところではどんなふうに取り組んでいるかなど、情報を常に共有して、参考にさせていただきながら、若林区のほうのオリジナルというか、もともとのその課題をしっかりと考えていきたいと思っております。</p>
<p>太白区保健福祉センター所長</p>	<p>太白区の栗城でございます。もう既にお二方がほとんど話されてしまいましたが、実情はほとんど同じでございます。なお、太白区は、市内でもなぜか最近若い方が結構入っていらっしゃる地域になりつつあります。住宅環境、家賃が安いという地域も結構あるということなのでしょうか。</p> <p>一方で働く世代も生活習慣病を抱えています。市内で見ても一番悪いほうだということで、危機感を抱いているところでございます。具体的にはお二方がもう既にお話しなさいましたので、省略しますが、先生がおっしゃった最後の各区ほかのセンターとの連携という部分に関してだけに絞って申し上げますと、実は一緒に同じ事業をするところまではいってございません。やはりそれぞれの担当が情報交換をしながら、地域に合わせて、地域に乗り込んでいく。</p> <p>乗り込んでいくという表現はあまりよろしくないかもしれませんが、地域に合わせて活動していくということを心がけながら、自分のところだけでなく、やはり隣の、隣の区の事業がどういうところかということに配慮をしながら、自分の事業を見つめ直して、事業を進めていくという姿勢を持って、事業に取り組んでおるところでございます。</p>
<p>寶澤委員長</p>	<p>ありがとうございます。大分いろいろと連携は取りながら、でも地域の実情に合わせてといったところかと思えます。僕なんかも今、大学で健康調査をやっていて、調べてみるとやはり被災された方、特に若林・宮城野区あたりだと被災住民の方が多くいらっしゃるの、そのあたりでメンタルヘルスの悪化に伴って活動が悪くなって、動かなくなって、メタボリックシンドロームにつながるというようなストーリーもあるかもしれませんので、多分その復興の部分と健康支援っていう部分が一体化してくるところもあるのかなと思えます。</p> <p>そういったところで共有できるところを共有していただきつつ、それぞれの地域に合わせてやっていただければと思います。それから、司会がどんどん話を広げて申し訳ないんですが、今、皆様から話が出た、子どもの教育のところからっていうところで、もしよろしければ、宮城県</p>

	<p>はもともとメタボリックシンドロームのリスクが物すごく高いのですが、教育局の方もいらっしゃっていますよね。</p> <p>子どもに対して、こういった生活習慣病予防について、どんな試みをされているかとか、そういったところについて、各センターとどのような連携を考えていらっしゃるかなど、教育局の方からお話いただければと思います。</p>
健康教育課主幹	<p>教育局健康教育課の八島と申します。よろしくお願いたします。教育局のほうでは主に小学校・中学校の義務教育を所管しているわけですが、生活習慣病にかかる教育といたしましては、主に保健体育科の保健の領域の部分において扱うというふうになっておりまして、その部分については年間数時間ではございますけれども、生活習慣病全般について扱うとともに、防煙であるとか、禁煙であるとか、あるいは薬物乱用防止とか、そういったところについても扱っております。</p> <p>それから食生活部分に関しましても、具体的に申し上げますと、朝食欠食率がやはり何%かございますので、そういったところをゼロにしていこうという目標を持って取り組んでおります。実際のところ、子どもたちの生活実態調査を見ますと、やはり小学校でも、中学校でも、具体的に朝食に関して申し上げますと、100%喫食しているというわけではございませんで、何%かの欠食率が見られますので、その理由についても調査して、家庭に啓発をしていっております。</p> <p>朝食を欠食している主な理由としては、食欲がないであるとか、あるいは夜遅くて、起床が遅いために時間がないというものが大きいです。それから食べる習慣がない、朝食が用意されていないなど。ほとんどが生活習慣に関わるものに起因しているものでございますので、そういったものも含めまして、家庭への啓発が必要になってきます。</p> <p>学校でありますと、養護教諭が発出する保健だよりでありますとか、それから学校栄養職員、栄養教諭が発出する給食だよりでありますとか、そういったものを含めまして、おたよりを中心に、保護者の方への啓発というものを特に行っているというところでございます。</p>
寶澤委員長	<p>ありがとうございます。実はこれ、仙台市だけの話じゃなく、子どもも大人も比較的ぽっちゃりというのが宮城で、恐らく根っこに同じようなものがあつたりするのかもしれない。</p> <p>そのあたりの考え方とか、健康を司っているという意味では、子どもの部分も、大人の部分も一緒だと思いますので、ぜひ連携しながら、お互いに多分養護教諭の先生方とセンターの保健師さんとか、そんな形で情報共有をして、仙台市の子どもたちのあるべき姿みたいところを考</p>

	<p>えていただけるとよろしいのかなというふうに思います。ほかに委員の先生方、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは続きまして各関係団体の取り組みにつきまして、本日ご出席の委員の皆様からご報告いただきたいと思います。各2分程度でご紹介いただくと助かります。資料2の13ページからということになりますが、本日青沼委員ご欠席ですので、次に掲載の仙台歯科医師会の駒形委員からお願いいたします。</p>
駒形委員	<p>よろしくお願ひします。それでは14ページ仙台歯科医師会というところをお開きください。それで重点分野3というところに、仙台歯科医師会がやっております対外的なことをもうほとんど、全部書いております。大体はいろいろなところに行って、歯と口の健康について、いろいろな団体と接触しながら、市民への啓蒙・啓発をしているというところでございます。</p> <p>次に今度は5ページと、あと参考資料2の9ページを開いていただきたいと思います。仙台歯科医師会は重点的にやってまいりました歯と口の健康づくりについて、先ほどもご紹介ありましたように、昨年度から3歳児カリエスフリー85プロジェクトというものを始めました。</p> <p>それでこれはどういうことかと言うと、私たち歯科医師がお子さんの、乳児の口腔内を初めて見るのが1歳半健診なのですが、その前に見ることができないかということで、医師会の小児科会と東北大学と仙台市と連携をいたしまして、8-9カ月児の乳幼児の健診において、小児科の先生のほうから歯科のほうの受診を勧めるというプロジェクトです。</p> <p>むし歯にも何もなっていない状態で、歯科のほうの受診を勧める。そういうことによって、早期に歯科と乳児の関わりをつくることによって、参考資料2の9ページ、1歳半とか、1歳半の歯科健診、ずっと減少傾向にはなっているのですが、たまたまなのか、平成27年度だけちょっとむし歯率が高くはなっておりますが、年々減少傾向ではあります。</p> <p>前回、ちょっと私間違ったことを言ってしまいました、やはり政令市の中では残念ながら多いほうということで、このカリエスフリー85プロジェクトをやることによって、少しでも1歳半、3歳、学校健診、そこにつなげていきたいと考えております。</p> <p>それと今年度から、登録医療機関において妊婦健診をやることとなりました。今まで保健福祉センターのほうで妊婦健診をやっていましたが、受診率だとか、あと受診される方の利便性を考えて、近くの診療所のできるようにということで、今年度からやることとなりました。</p> <p>ただ、なかなかいろいろな指導など、難しいこともございますので、</p>

	<p>まずは講習会、研修会を受けて登録された医療機関のみで健診することになりますが、なるべく多くの歯科医師会所属の先生に受診していただき、市民の妊婦の方々が近くのかかりつけの先生で健診できるようにやってまいりたいと考えております。</p> <p>またこの妊婦健診で今後期待されることは、妊婦の方を指導するということは、イコール今から生まれてくるお子さんに対しても、指導できるということですから、いわゆるお腹の中から、乳幼児、乳幼児から1歳半、3歳半、そして学校健診、資料2の5ページにも書いてありますが、今、仙台市と歯科医師会でやっております20歳のデンタルケア、30から70までの節目健診と。このシームレスな健診事業をすることによって、少しでも歯と口の健康づくりに関わってまいりたいと考えております。</p> <p>そしてさらに今年度は健診事業ではなく、新たに予防ということで、仙台市内の小学校でフッ化物洗口ということモデル事業としてやることとなっております。これもいろいろな関係団体と協力しながら、佐々木局長にもいろいろお世話になりましたけども、今年度からやってまいりたいと思いますので、今後すぐ来年のこのような資料には出てはきませんが、もう少し長いスパンで見ていただき、ワーストのほうからもうちょっとよくなるようにとやってまいりたいと思います。</p>
<p>實澤委員長</p>	<p>ありがとうございます。それでは引き続きまして看護協会の佐藤委員お願いいたします。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>16ページをご覧ください。重点分野の1のところでは市内7カ所で「まちの保健室」の事業を実施する予定です。それから訪問看護総合センター、看護協会の向かい側にあるのですが、そこを会場にして毎月1回、「まちの保健室」を開催いたします。</p> <p>それから看護週間行事として、看護の広場ということで、「まちの保健室」を開催します。これは会場がアエルということで、ここもう何年も続けてやっているところです。それから看護職向けの研修として、脳卒中に関する研修を、3回シリーズで行う予定になっております。</p> <p>それから重点分野2としては、看護職自身と看護職を通しての市民への対応や普及を目的にして、メンタルヘルスマネジメント研修を実施いたします。そして市民公開講座として、認知症について、今問題となっている認知症について公開講座を開きます。それから看護職向けの研修として、認知症の関連研修を行います。</p> <p>そして重点分野の3としては栄養士会主催の、ここは栄養まつりって書いてありますが、「いい日いい汗栄養まつり」というのが正式名称なん</p>

	<p>ですが、そこに一緒に参加して進めていきます。</p> <p>重点分野の4としては、会員向けの広報誌があるのですが、併せて一般向けの広報誌で、禁煙についての啓発活動を行います。そして禁煙デーに合わせて、館内の禁煙ポスターを、館内に禁煙ポスターを掲示いたします。</p> <p>それから重点項目の5としては、一般向け広報誌に感染症予防についての記事を掲載いたします。公益社団法人発行の広報誌ということで、結構見てくださる方が多いので、この記事を載せる予定です。それから中学生・高校生、一般の方を対象にした一日看護体験事業というのがありますが、それを通して感染症予防の重要性を普及させていきます。</p> <p>もう1つは看護職向けの研修として、一人一人が取り組む感染防止対策について、研修を進めていきます。具体的にはまたもっと詳しいところもあるのですが、大筋のところは以上です。</p>
<p>寶澤委員長</p>	<p>ありがとうございます。引き続きまして、仙台労働基準監督署の菅原委員よりお願いいたします。</p>
<p>菅原委員</p>	<p>当署では労働基準法や労働安全衛生法といった、いわゆる労働基準関係法令に基づいて、雇用労働者の労働条件の確保改善、あるいは安全衛生管理などを確保していくということ。それから労災補償について行政指導等を行っています。対象は基本的には職域ということになります。</p> <p>当署の管轄は仙台市を含む5市6町ということになりますので、その中の仙台市というのは一部ということになります。本プランとの関連で申し上げますと、主に当署の安全衛生分野が中心になってくるわけですが、今年の当署の重点施策というところと照らし合わせてみますと、ポイントは大きく4点かなと思っています。</p> <p>まず1点目が労働安全衛生法上、職場の健康診断、これを原則として年に1回実施するということが義務づけられておりまして、それからその実施結果に基づいて、有所見者については医師等から意見を聴取して、適切な事後措置を講じ、さらには保健指導を行うということが法令上の義務、努力義務ということになっております。この辺りを実施していくというところが、重点分野の1と関連してくるかなと思っています。</p> <p>それから2番目が、これはもう典型的には労働者の自殺というところからイメージしていただければいいと思うのですが、精神障害による労災請求、これは年々増加しているというふうなことで、昨年も一昨年同様、過去最高の請求件数が当署のほうに寄せられているという状況を踏まえまして、メンタルヘルス対策といったものに取り組んでいるところでございます。</p>

	<p>このメンタルヘルス対策につきましては、本省の指示で全国で取り組んでいますけれども、現在は平成 25 年から 29 年までの 5 年計画として取り組んでおりまして、今の目標としましては、50 人以上の事業場の 8 割が、この取り組みを行うということを目指しています。このメンタルヘルス対策の中で、当面、ストレスチェック、これが昨年の 12 月から法令が施行されておりますので、このストレスチェックの制度の履行といったものを、いかに集めていくかということが大きな課題となっております。</p> <p>それから 3 点目が受動喫煙の防止です。こちらは昨年の 6 月から改正労働安全衛生法で努力義務となっておりますので、この取り組みについても進めていくことになっていきます。</p> <p>それから 4 点目、最後ですけれども、実はこれが今年の当署の最重要課題と位置づけているのですが、いわゆる過労死の問題、働き過ぎによる健康障害、こういったものをどうやって防いでいくかということ、重点的に考えているところです。これは先ほど申し上げました、精神障害による労災請求は、この一部が、長時間労働がその原因になっているという実態がございますし、それからいわゆる長時間労働を原因とした脳・心臓疾患の労災請求がございます。この長時間労働を原因とする脳・心臓疾患の労災請求というのは、実は精神障害に比べて、若干減少傾向にあるということなのですが、いずれこの 2 つの大きな問題を引き起こしているということで、長時間労働の抑制と過重労働による健康障害の防止といったものを、重点的に取り組んでいるところです。具体的には今、政府の重要課題の 1 つであります「働き方改革」といったものの中に、時間外労働の抑制、それから年次有給休暇の取得促進といったものが位置づけられておりますので、これらと併せて取り組んでいくということになってくると思いますし、それから実際に長時間労働を行った労働者に対する医師の面接指導と、事後措置の実施を適切に取り組んでいただくと、指導を進めております。</p> <p>こういった 4 点の課題について、根拠法令、あるいはその指針、それからその行政通達などに基づいて、個別指導、あるいは集団指導を行い、あるいは資料配布によるその周知、あるいは自主点検等を実施して、実態を把握していくことなどを今年度の取り組みと考えてございます。</p> <p>それから、関係団体と連携して、支援事業や助成金制度などの活用を促進していくというようなことを考えてございます。以上です。</p>
<p>寶澤委員長</p>	<p>ありがとうございます。引き続きまして宮城県栄養士会の片倉委員、お願いします。</p>

片倉委員	<p>はい、それでは栄養士会の報告をさせていただきます。重点分野の1は「いい日いい汗栄養まつり」ということで、一般市民を対象に最新の健康・栄養情報のためのイベントを開催しております。県内の健康づくりの関係団体と連携をして、栄養士会が主催という形です。</p> <p>続いて健康・栄養講演会の開催、3番は行政や他団体と連携した健康づくり普及・介護予防啓発事業、被災者支援事業ということで、4番目に書いていませんけど、生活習慣病などの個別の内容に対応した栄養指導ということで、医療機関・保健指導団体等に対しまして、管理栄養士を紹介しまして、生活習慣病の重症化予防や、高齢者の低栄養予防に関する栄養指導を実施しております。</p> <p>重点分野の3につきましては、仙台歯科医師会主催の歯と口腔の健康祭りにおきまして、栄養ブースを設けていただきまして、栄養指導や健康教育を行っておるところです。</p> <p>重点分野の4は各種生活習慣病の予防の講習会におきまして、禁煙の啓蒙を行っております。</p> <p>重点項目の5、健康づくり普及・介護予防啓発事業、被災者支援事業におきまして、各種感染予防の啓蒙活動を行うということが28年度の事業ということで、ご報告させていただきます。以上です。</p>
寶澤委員長	<p>ありがとうございます。また引き続きまして全国健康保険協会宮城支部の及川委員、お願いいたします。</p>
及川委員	<p>はい、お手元の資料でございますが、様式2-2、こちらは27年度の事業実施状況を簡単にまとめさせていただいたものですので、ご参考にしていただければと思います。尚、こちらに掲載いたしました数値データでございますが、一部見込み数値というような形で掲載しておりますので、ご了承いただきたいというところでございます。</p> <p>様式2-1、こちらの事業計画をお話しさせていただきます。重点分野1につきましては、健診それから特定保健指導の受診率アップ及び業務委託を軌道に乗せた実施率を伸ばす施策というところで、こちらに合わせまして、健診の結果が「要治療」等で未治療の方に対する受診勧奨。それから糖尿病性腎症の予防事業につきましても、今年度重症化予防事業の展開という形で進めさせていただく予定になっております。</p> <p>協会健保宮城支部は宮城県の加入事業所が約3万事業所ございまして、加入者が約70万人弱おります。70万人のうちの3分の2が働いているご本人、被保険者の方になりまして、残りが被扶養者と呼んでおりますご家族の方となっておりますが、どちらかと言いますと、被保険者本人の方に対する保健事業の展開というところを多く実施しているところ</p>

	<p>ろでございます。</p> <p>重点分野の2のところにつきましては、先ほどお話もございましたが、やはり協会健保も傷病手当金の支給状況の中でメンタルヘルスによる傷病手当金の支給が3割くらいというところから、徐々に増加傾向にございまして、やはりメンタルヘルスに対する事業の展開が、今、喫緊のところまで迫られている状況でございます。大きくは二通り、個人向け、それから事業所単位の出前講座などでの啓発、普及活動、それと合わせまして、県内を3会場に分けまして、メンタルヘルスセミナーを開催というところで、重点分野2のところを計画をさせていただいております。</p> <p>それから重点分野の3番でございますが、こちらは協会健保加入事業者さんのところから、健康保険委員さんを委嘱させていただいております、その方たちにあてた広報誌、『だてっこ宮城』という名称で呼んでおりますが、こちらを四半期に1回約3千部ほどお送りして、協会健保の事業の参画であるとか、協力の要請などを行っている状況です。</p> <p>それから県の歯科医師会さんと連携した歯科健診に関する新しい展開なども現在検討中でございます。</p> <p>それから重点分野の4番ですが、こちらは宮城県さんと共同で受動喫煙防止宣言施設の登録制度というのを昨年度から実施しております、今年度も継続していく予定になっております。</p> <p>また、ホームページ、それから広報誌などで適宜情報提供なども行っております。</p> <p>重点分野の5番ですが、感染症の予防については、経済的な負担という点はこちらのほうではできていないのですが、ホームページなどで季節の健康情報などの情報提供を行っております。</p> <p>それから今年度の実施計画の中では、健康経営の取り組みの推進ということで、宮城県さん、それから経済団体の関係機関と連携させていただいて、職場の健康づくり宣言制度というところを起こしまして、県内の企業の従業員の健康に積極的に取り組む意識を醸成するというような、そういう取り組みを進めてまいります。以上です。</p>
<p>寶澤委員長</p>	<p>ありがとうございました。その他の団体の取り組みにつきましては、お手元の資料を見ていただければと思います。それでは続きまして平成28年度食品安全性確保対策について、事務局より資料3に基づき、ご説明をお願いいたします。</p>
<p>生活衛生課長</p>	<p>健康福祉局保健所生活衛生課の相原と申します。資料3に基づきまして、平成28年度の食品の安全性確保対策について説明申し上げます。座って説明申し上げます。</p>

本市における食品の安全性確保対策につきましては、平成 18 年に制定いたしました食品の安全性に関する基本方針に基づき、毎年度食品衛生監視指導計画を策定して、総合的かつ計画的に推進しているところでございます。

平成 28 年度における取り組みとしましては、5 つの重点事業がございます。まず重点事業の 1 でございますが、先ほど佐々木健康福祉局長のほうから、今年度の局の重点事業の 1 つであると説明がございました HACCP の手法を用いた自主衛生管理の推進でございます。この HACCP は世界的に普及が進んでおります、優れた衛生管理方式でございます、国としましては 2020 年に東京オリンピック開催を見据えまして、国を挙げて現在 HACCP に取り組もうとしているところでございます。

そのメニューの 1 つといたしまして、先ほどご説明ございましたモデル事業、地域連携 HACCP 実証事業、こちらに参加いたしまして、国とコンサルタントと東北厚生局と意見交換を進めながら、HACCP のノウハウを学んで取り入れて、HACCP 取り組みの支援を進めてまいります。

また本市独自の制度である仙台市食品衛生自主管理評価制度、通称仙台 HACCP と言っておりますが、こちらの参加を促しまして、段階的に HACCP に取り組めるよう支援するとともに、事業者や市民に対して仙台 HACCP の広報に努めて普及を進めてまいります。尚、昨年度は 2 施設の新規評価施設があり、合計 34 施設が評価を受けたところでございます。

続きまして重点事業 2 の食肉及び内臓の生食による食中毒防止対策の強化についてでございます。平成 24 年に牛の肝臓、そして昨年 6 月に豚肉及び豚の内臓の生食が禁止されたことから、これらを販売提供しないように、食品等事業者への指導を徹底してまいります。また生食用牛肉につきましては、規格基準に適合したもののみを提供するよう、指導を徹底してまいります。

また現時点で規制のない鶏肉、そして鹿肉や猪肉など野生鳥獣肉、いわゆるジビエと言っておりますけれども、こちらの生食につきましても、カンピロバクター食中毒や E 型肝炎、そして寄生虫症のリスクが大変高いということから、提供しないように指導するとともに、市民に対しても食肉は加熱して食べるように注意喚起に努めてまいります。

続きまして重点事業の 3、ノロウイルスによる食中毒防止対策についてでございます。ノロウイルスによる食中毒はノロウイルスに汚染された下水を取り込んだカキなどの二枚貝を生で食べることや、不顕性感染者の手指を介在して汚染された食品を食べることが主な原因になってございます。こうしたことから市場を流通する生カキの検査を行いまして、

	<p>検査結果を広報し、市民への注意喚起に努めてまいります。また食品等事業者や市民に対して、さまざまな機会を捉えて、正しい手洗いの励行を啓発してまいります。</p> <p>続きまして食品等の放射性物質、残留農薬及び動物用医薬品への対応についてでございます。市民の関心の大変高いこれらの検査につきましては、計画に基づき、検査を行い、違反食品の流通防止に努めてまいります。</p> <p>最後に重点事業5のリスクコミュニケーションの推進についてでございます。食品にはリスクゼロはあり得ないということ、市民及び食品等事業者と意見交換を行い、相互理解に努めてまいります。公募により選出した市民を、「せんだい食の安全サポーター」及び「せんだい食の安全情報アドバイザー」として委嘱し、年間を通じて意見交換などの活動を行い、正しい食品情報の理解に努めてまいります。以上が平成28年度食品の安全性確保対策の主な取り組みでございます。</p>
<p>寶澤委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。今年度の事業概要につきまして、各関係団体及び食品安全性確保対策についてのご説明がありました。これらの取り組みについてまた委員の先生方からご質問でございますでしょうか。よろしいですか。はい、それでは次の議題に移りたいと思います。議題4、第2期いきいき市民健康プラン中間評価の関連調査についてということで、資料4に基づきまして、事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>健康政策課長</p>	<p>はい、健康政策課よりプランの中間評価関連調査についてご説明申し上げます。資料4でございます。1枚目にある資料につきましては、今年度プランの取り組みに向けた総括評価を行うために、1から3の調査等を実施する予定になってございます。</p> <p>おめくりいただきまして、カラー刷りの資料をご覧いただきたいと思っております。表裏になってございますけれども、こちらはプランの健康づくり指標につきまして、第2期のプラン作成当時の、平成21年の現況値と、34年における市の目標値を一覧にしたものでございます。</p> <p>今年度は平成21年度の現況値からどれくらい目標に近づいているかというところを、市民健康意識等調査をはじめ、資料等々を拾い上げまして、この評価を行うこととなります。またこの仙台市のプランは、健康日本21の第二次よりも2年早く計画を策定をしたということでございますので、第二次の国の指標にない項目もございます。それがこの表の横にある、右側にある資料でございます。</p> <p>今年度はこれらの右側の指標を現況値として把握しまして、最終評価</p>

	<p>をしていくという予定になってございます。右側にある指標のうち、赤のダイア印がついているものが今年度、市民健康意識調査で把握する指標になってございます。</p> <p>現在、そのほかの意識調査以外の指標につきましては、その把握方法などもいろいろ検討を進めているところでございます。以上です。</p>
寶澤委員長	<p>はい、ありがとうございます。従来の目標値に対しまして、市の目標値立てた後につくられた健康日本 21 に沿って、比較対象ができるような項目を加えていくと。基本的には既存資料、既存事業から評価ができる項目が入っていますが、そうじゃない部分について、市民健康意識調査で把握して、そちらのほうを埋めていくといった形かと思います。</p> <p>こちらにつきまして、委員の先生方から何かご意見ございますでしょうか。安齋先生、何かございせんか。</p>
安齋委員	<p>少し私の理解が不十分だったので教えていただきたいのですが、この赤い印のついたダイアの部分を今回の調査で聞くということで、平成 21 年に調査されたという、この水色で囲った部分と合わせてという意味でしたでしょうか。</p>
健康政策課長	<p>はい、そのとおりでございます。この水色の部分に追加して、調査の中に加えるということでございます。</p>
安齋委員	<p>なるほど、はい、理解いたしました。市民目線でひとつ、日ごろから疑問に思っていることは、分煙ですとか、受動喫煙に関してはなかなか進んでいないところは進んでいないなということです。特に飲食店などそういうところではまだまだ多いと思います。</p> <p>普段、日常的に生活していらっしゃる方が、どこまで意識しているかっていうようなことですか、あとはやはりお店のほうはお客様のために、分煙が難しいということを経由しているところが多いような気がするのですが、市民は分煙をもう少し進めてほしいと思っている人も多いのではないかと思いますので、そういう視点でも聞いていただくと現状がわかるかなと思います。</p> <p>ただもしかすると、吸わない人にはとってあまり関心がないということで、いい結果が出ないかもしれないのですが、その辺りの実態がわかると、なおいいのかなと思いました。</p>
健康政策課長	<p>ありがとうございます。受動喫煙に対する意識といったものも、検討させていただきたいと思います。</p>
寶澤委員長	<p>これは市現況値の出典が健康増進課調べになっていますが、この実態については平成 34 年まで調べない予定なのか、どこかでレポートが続けられるものなのか。中間報告のときにまた健康政策課で現状把握される</p>

	のでしょうか。59、60が多分目標値になっていると思うのですが。
健康政策課長	はい、こちらは対策をしている公共施設については、こちらで毎年状況等を把握をしているところでございます。また、事業所は今年調査をして確認をする予定になっています。
寶澤委員長	現状どんな感じですか。100%に34年までいきそうですか。
健康政策課長	これはかなりあるべき姿に近づきたいというところでございます。
寶澤委員長	現状把握した上で、34年に向けてどう対策を打っていくかは大事だと思いますので、またよろしく願いいたします。赤坂先生は何かございませんか。
赤坂委員	今委員長もおっしゃったことですが、PDCAを回していかないとということで、中間年に調査を実施するということかと思うのですが、もう少し細かくチェックをしていくということも大事なのかなと思うのですが。例えば次は最終年ということになると、7年間空いてしまうということになるのですが、その間にまた再度、こういった調査を実施する予定などはあるのでしょうか。
健康政策課長	この指標の中では意識調査等のような大がかりなものは毎年というわけにはいかないところもありますが、この現況値出典の中で、実績報告ですとか、人口動態統計ですとか、毎年数値を押さえられるものもございますので、毎年、毎年は全部は難しいんですけども。そういった評価というものは取り組んでまいる予定でございます。
赤坂委員	例えば今年度、こういった調査をして、どうも進捗状況が芳しくないというところも出てくるかと思うんです。予定どおり進んでいる、あるいは予定以上に進んでいるところもあれば、ちょっとあまり進んでいないというところも出てきて、それに対する対策を考えられるということであろうかと思うのですが。 そういったところで、では次は7年後というと、平成29年度に打った対策が本当にそれでいいのかどうかということも、チェックする必要が出てくるのではないかとということもありますので、そういったこともお考えいただければと思います。どうぞご検討のほどよろしく願いいたします。
健康政策課長	ありがとうございます。
寶澤委員長	すみません、嶋中委員はいかがですか。よろしいですか。では、高橋委員はいかがですか。
高橋委員	若林区のほうでも健康づくり行動計画というのを市にならって、地域性も出してつくっているの、若林区も区民会議を中心に、中間報告の項目を考えておりまして、仙台市と全く同じ項目ではないかと思うので

	<p>すが。仙台市の5区全体の中で、若林の位置が見えるのをすごく楽しみにしております。</p>
寶澤委員長	<p>ありがとうございます。庄司委員、お願いします。</p>
花井委員（代理で庄司庶務課長）	<p>今日の議題は健康づくりということで、私警察のほうから来ているものですから、なかなか直結するお話ができなくて申し訳ないのですが、ただ、お話を聞いておまして、大変丁寧でわかりやすい説明、そして本当に見やすい資料をいただきまして、皆さんの取り組みに非常に期待が持てるなと感じております。</p> <p>ただ、私の経験といいますと、非行少年を扱ってきたという経験がありまして、朝食と非行ということで、いわゆる少年院に入っている子どもたちにアンケートを取ったところ、朝食を食べていない子どもが非常に多いということと、朝食を食べていたとしてもコンビニですとか、そこで弁当を食べて、母親の愛情のこもった食事を取っていないというのが、少年院に入っているような、重い事件を起こした子どもたちに非常に多いということが統計上ありますので、そういった防犯も含めて、ぜひ、朝食を子どもたちにしっかりとるようにという取り組みを進めていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。</p>
寶澤委員長	<p>はい、ありがとうございます。今のとてもいい話で、妊婦さんの歯を見ていただく機会に生まれてくる赤ちゃんの歯の大事さを伝えていただくときにあわせて、子どもに朝ごはんをつくる愛情というような話を伝えていただくといいですね。なかなか一般の市民の方々がこういった行政サービスを提案する機会って少ないですが、こうやっっている課の方が集まって話をしていると、あ、これにこれも乗つけられるとか、あれも乗つけられるというような感じになりますよね。</p> <p>ぜひ市のほうでそういったチャンスを見つけて、課をまたがってでもいいので、現在の行政サービスに何かいろんなものを盛り込めないか、そういう対応をしていただけるとすれば、今のような話はすごくいいのかなと思います。片倉委員、どうぞ。</p>
片倉委員	<p>今、寶澤先生がお話ししました妊婦さんのことで、妊婦の歯科健診が始まるということを聞いていました。私は登米市の行政の栄養士だったんですが、そのときに妊婦さんに母子手帳を交付するときに、歯肉増殖というか、歯周疾患が多い妊婦さんの大半が歯茎の状態が悪いなということに気づきまして、そのときに、生まれ来る赤ちゃんの食事、栄養という部分と、母子、お母さん自身の妊婦さんの栄養という部分で、栄養士が関わってお話をしていたんです。</p> <p>ですから、母子手帳交付のときに、歯科健診のみじゃなくて、保健師</p>

	<p>さんや栄養士さんにもそのように関わってもらいとさらにいい結果が出るのではと思います。仙台市さんは対象となる妊婦さんが多いので、登米市と違って難しいかなとも思いますが、方法のひとつということで、よろしくお願ひしたいと思います。以上です。</p>
寶澤委員長	<p>ありがとうございます。なかなかこういったメンバー、年に何度も集まれませんので、この機会にお話ししたいという方はいらっしゃいませんか。よろしいでしょうか。それでは本日の議題、以上になります。最後にその他でございますが、委員の皆様、あるいは事務局から何かございますでしょうか。</p>
保健管理課長	<p>それでは委員の皆様から特になければ、保健管理課から次回の協議会の日程についてご案内を申し上げます。次回ですが、年明けの1月ごろの開催を考えているところでございます。時期が近づきましたら、正式な日程につきまして、改めてご案内をいたしますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。以上でございます。</p>
寶澤委員長	<p>ほかにございませんでしょうか。本当に皆様からいろいろご意見いただき、ありがとうございました。委員からいろいろ申し上げましたが、実際に反映できるものとそうでないものがあると思いますので、市で使えそうだったこと、今日の話の中で参考になりそうだと、これをするともっと市民の健康がよくなりそうだとということで、採用いただけるところがありましたら、ご検討いただき、引き続き市民の健康を守るため頑張っただけければと思います。それでは事務局に進行を引き継ぎたいと思います。</p>
進行	<p>委員長ありがとうございました。それでは委員の皆様、長時間にわたる議論、本当にありがとうございました。以上を持ちまして、平成28年度第1回仙台市地域保健・保健所運営協議会を閉会いたします。本日は大変ありがとうございました。お疲れ様でした。</p>
	—了—

平成28年 月 日
署名委員